

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.40 2022年8月発行



ロシアによるウクライナ侵攻は続き、国内では猛暑と豪雨、コロナ感染の急拡大、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

ある日ふと目に留まった読売新聞の記事「刑務所になくて社会にあるもの」(7月17日)の中に、刑務所の高齢収容者はここ20年で倍増し介護施設のようになっている様子、出所しても、仕事や住む場所が無く再犯してしまう実態(65歳以上の5人に1人は、出所後2年以内に再入所している)が載っていました。「刑務所になくて社会にあるもの」その答えは「孤独」です。

安倍元総理を襲撃した山上徹也容疑者は、絶対に許されない殺人事件を強行し、これまで一人で抱えてきた苦しい心情を公にする結果となりました。同様の犯罪は後を断ちません。

私は犯罪の被害者遺族になって以降、警察、自治体、支援者等と「被害者も加害者も出さない社会を作ること」を議論し続け、被害者支援の様々な取り組みに携わってきました。閉塞感が強まる中、「自助努力」ではどうすることもできない人々の実態を社会が受け止める必要性を実感しています。

いま区は「誰1人取り残さない地域包括ケア体制を作る」スローガンを掲げていますが、多様な意見を受け入れ、孤独から救うことは簡単ではありません。行政がしっかりと現実を認識し、地域の安全、人の命を守る政策に力を入れていくことが重要であることを私は常に質問し続けています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

暑さ厳しい折、どうぞご自愛ください。

いま中野区は！

◆子育て先進区を目指す取り組み

2期目に入った酒井区長は「子どもにやさしいまち作り」を進め「子育て先進区」を目指しています。

- 子ども・若者支援センターと児童相談所の開設(開設済み)
- 子ども相談室の設置(子どもの権利救済機関)9月1日開設予定
- 教育センター分室(野方1-35-3) 月～土の平日11～19時

様々な相談機能を設けることは大切なことですが、多種多様な問題を抱えた子どもたちに対応する相談員の質を高めて行くことが喫緊の課題です。私は職員の人材育成について質問をしました。(裏面「私の議会報告」第2回定例会一般質問参考)

◆中野駅周辺のまちづくり

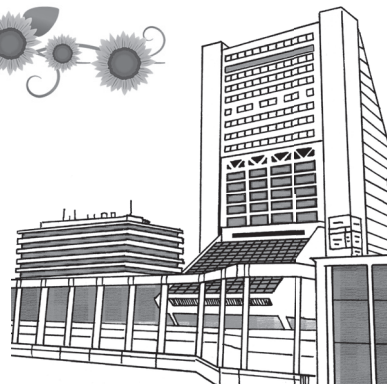
- 2023年 中野区新庁舎完成
- 2027年 中野駅西側南北通路・橋上駅舎等工事完了(駅ビルを含む)
- 2028年 中野4丁目新北口駅前地区工事完了

このような予定で中野駅周辺のまちづくりが進んでいきます。

サンプラザは2023年7月2日に閉館することが決まりました。その後周辺の土地とともに再開発され、ホールやオフィス、ホテル、商業施設等ができる予定です。(施工予定者:野村不動産・東急不動産・住友商事・ヒューリック、JR東日本を加えたグループ)

他にも囲町西地区、囲町東地区、中野2丁目、中野3丁目等で市街地再開発事業・土地区画整理事業が進められています。今後7年ほどの期間で中野駅周辺の景色は大きく変わることになります。

街の再開発に伴い、住人の立ち退き等様々な問題が起こります。行政の十分な説明と区民の理解が求められます。



現在の中野駅北口



<http://saekonikki.exblog.jp/>

日々の活動をお知らせしています。

3月26日 新全国犯罪被害者の会(新あすの会)創立大会

2018年に解散した「あすの会」のメンバーが、国が加害者に賠償請求をする制度や犯罪被害者庁の設立等を求めて行くために「新あすの会」を立ち上げました。代表の岡村勲弁護士(92歳)は、「被害者の苦しむ声は尽きず、立ち上がらないわけにはいかなかった。1日も早く制度を実現させたい」と訴えました。来賓として出席された前法務大臣の上川陽子氏、前環境大臣小泉進次郎氏、平沢勝栄氏の挨拶がありました。副代表の白井孝一弁護士が会設立宣言・大会決議文を読み上げ、新あすの会が創設されました。



挨拶する岡村代表

ご高齢の岡村先生が国の被害者制度の充実に再度挑む決心をされたことに感動し、私も微力ながらお手伝いして被害者救済のため戦っていく決意を新たにしました。

7月13日 特殊詐欺の電話

警察の職員を名乗る電話がかかってきました。「あなたの家に空き巣に入ろうとしていた人物を捕まえた」と言い、犯人2人の名前を挙げ「身に覚えがありますか」と尋ねられました。私が「ない」と答えると電話は切れてしまいました。

話がどういう展開になるのかも分からず気持ちが悪いので、名乗った警察に電話をしたところ、詐欺であることが分かりました。なぜ目的も言わずに切ってしまったのか聞いたところ、海外からの電話等で上手く繋がらないことがあるそうです。

区が無料で貸し出している「自動通話録音機」(通話前に警告メッセージが流れ通話内容を自動録音する機械)の利用を勧められました。警察には、複数の詐欺の報告があったそうです。

皆さんもご注意ください。



私の議会報告

近藤さえ子は第1回および2回定例会で以下の質問をしました。



第1回定例会

一般質問(2022年2月17日)

1. 新庁舎移転を契機に区民サービスの向上を^{ワンナップ}

OneUp↑チャレンジ(以前の「おもてなし運動」)において、業務改善運動の機運を高めるためのプランを区役所の各所属職員たちが発表し、今回はペーパーレスの取り組みを行った総務部が優勝した。

今後新庁舎への移転を契機に、デジタル化、ペーパーレス化が進み、業務が改善され役所内が便利になることは望ましいが、区役所を訪れた区民、特に高齢者にとって、親切な職員がいて、安心して手際良く手続きができる「おもてなし」の精神を大切にする温かみのある中野区新庁舎であって欲しいと思う。

区長 相談しやすい環境を整備する等、満足度の高いサービスを提供していく。

2. 不登校の子どもたちへの対応について

近藤 「令和4年度当初予算(案)概要」に、急激に増加する不登校傾向や不安感を持つ児童・生徒にきめ細かな支援を行うための人材の増員等の記載がある。現在の不登校の傾向、現状は。

教育長 令和3年度の4～12月末までに20日以上欠席した児童・生徒数は令和2年度と比べ、小学校で1.4倍、中学校で1.2倍と急増している。

近藤 「みらいステップなかの」の存在は周知されているとは言えず、必要な区民が利用できていない。相談機関や体制を周知させて不登校の子どもたちに届く支援にしていこうと考える。

教育長 不登校傾向の児童・生徒や福祉的な支援が必要な家庭には、スクールソーシャルワーカーが直接家庭を訪問し支援を行っている。来年度は増員していく予定である。



第2回定例会

一般質問(2022年6月28日)

1. 職員研修について^{しっかい}

多摩市では毎年行う研修の中で、犯罪被害者への理解や窓口の意義を広く伝え、教職員に対しては、「人を殺めてはならない、暴力はいけない」と人権教育の原点を伝えている。中野区でも職員の新規採用時、昇任時、管理職向けなど、被害者支援を全員が必ず受講するよう、職員のキャリア形成における研修プログラムの中に位置づけてはどうか。

また、「誰1人取り残さない地域包括ケア」において、課題を抱える区民を発見して適正な支援に結びつける重要な役割を担うアウトリーチチームの専門職、医療職、福祉職も、すでに区民の課題解決に向けての動き方を知り全国的に注目されている犯罪被害者等相談支援窓口の部署から学ぶべきだと思う。

区長 他の分野の個別研修も含めて、改善の題材の1つとして検討していきたい。

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(5期) 趣味:テニス

予算特別委員会総括質疑(2022年3月1日)

1. 新たな機能を備えた児童館について

近藤 利用者18人の一時保育事業に1,145万円の予算をかけ、また一部限定で日曜日に児童館を開ける考え方は理解に苦しむ。

育成活動推進課長 児童館の日曜日開館管理業務委託費用は1館分112万円。区は「子育て先進区」の施策を進めていて、乳幼児親子への支援は重要であると認識している。

近藤 現在多くの区民が子どもたちのために活動してるが、プレーパーク事業のみ人材育成の支援をし事業を拡大する理由は何か。

育成活動推進課長 中野区基本計画でもプレーパーク事業の拡大を目指していて、区民からの要望も多い。

2. 地域包括ケア体制の確立について

近藤 中野区再犯防止推進シンポジウムにおいて、講師の村木厚子氏(元厚生労働省・冤罪で5か月間の拘置所生活を送る)は、「刑務所にいる人は生きづらさを抱えた人であり、地域で支えられなかったのか。中野区が進めようとしている地域包括ケアの取り組みが大事である」と発言された。中野区の再犯防止の取り組みが、国や都をリードしていく可能性についてどう考えるか。

区民活動推進担当課長 地域包括ケアの取り組みとして再犯防止、犯罪をした人の立ち直りを位置づけるとともに、犯罪被害者の支援を取り入れて策定している。

3. 哲学堂公園保存活用計画について(哲学堂七十七場)

近藤 平成24年の哲学堂公園保存管理計画は、総予算額もゴール時期も決めない適当なもので、途中でストップしてしまった。今回策定予定の哲学堂公園保存活用計画は、区全体の予算状況を考えてゴールを定めた計画とすべきと考える。

文化国際交流担当課長 今後の整備箇所、計画の年次等については、必要となる経費の概算見積も行い、検討委員会での議論も十分に踏まえながら進めたい。



2. 脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて

区報には「その一工夫でゼロカーボン」と載せながら、区が紹介する高額な生ごみ処理機、電気を使用する製品は、区民には高額で敷居が高く、ゼロカーボンにも逆行している。

私は、環境団体の皆さんとごみをダンボールコンポストで堆肥化し、その堆肥で公園の花壇づくりや小学校のプランター作りなどを行ってきた。地球に優しいダンボールコンポストを区報や出前講座で紹介する、一部の地域で試験的に取り組むなどして、そこから区民とともに「ひと工夫してゼロカーボン」を進めてはいか

区長 ダンボールコンポスト等については、安価で比較的取り組みやすい生ごみ減量の形と考え、区民に情報発信して行きたい。

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com